

## 論点3 ICT活用による新たなサービスの創出

### 1 基本構想より

#### 第2章 2-1. 「知の地域創造」のための図書館

##### (1) 「知の地域創造」のための図書館

これまでの多摩市立図書館は、紙媒体としての本を貸し出すという機能が中心でした。最近の新しい図書館の事例を見ると、資料面ではマルチメディア、ゲームから「もの」実物展示まで、機能の面ではビジネス支援などの課題解決や作業の場、居場所や交流の場の提供など、本来「図書館」というものは「世界の知識にアクセスできる機能」を基本として、時代の要求に応じてフレキシブルに変わっていく可能性を持っています。

#### 第3章 3-2. 基本的図書館サービスの深化と高度に専門化された新しいサービス

##### (1) 「専門性が深化し充実した基本的図書館サービス」

##### 4、ICT（インターネットやコンピュータ技術）を導入したい。

- ・ ICチップを資料管理に加えて、混配表現導入を研究したい。
- ・ 自動貸出、予約本セルフコーナーなどの展開を研究したい。
- ・ 専門的データベースを含むデジタル情報資源の提供を検討。

##### (3) 「全市図書館システムのセンター機能」

##### 2、ICT導入で、情報の流通や資料管理を整えます。

全市の図書館資料が共通MARCであることの強みを生かす。

##### (5) 「時代が求める高度で専門化された図書館サービス」

##### ⑤ あらためて、市民一人ひとりの課題を解決できる図書館の条件を掲げたい。

- 有料のデータベースや電子書籍、AVマルチメディア資料が、無料で提供される。
- 館内にWi-Fi、電源などを整備して、PCの利用環境を整備する。

## 2 基本計画の方針（案）

ICT 活用により、新たな情報サービスの提供と、業務の集約化や合理化をはかる。

課題 3-1 IC タグの導入により、貸出や予約受け渡し作業を縮減。貸出機能は維持しつつ、貸出以外のサービスの充実を図る。

IC タグシステムの主要な 5 つの機能と効果

機能	効果
自動貸出	<ul style="list-style-type: none"><li>● 利用者自身で貸出処理が完了</li><li>● 図書館員は貸出入力作業以外の相談、主催事業の企画、蔵書構築などの作業に専念できる</li><li>● 利用者のプライバシーの向上</li></ul>
自動返却	<ul style="list-style-type: none"><li>● 返却口に投入することで、返却処理が完了。</li><li>● 図書館員による返却処理を待つ必要がない。</li></ul>
自動予約棚	<ul style="list-style-type: none"><li>● 利用者自身で予約図書を受取と貸出処理が可能。</li><li>● 自動予約棚に置くだけで、予約確保連絡メール処理が連動。</li><li>● 予約確保時の名寄せ作業などがなくなり、図書館員は相談、主催事業企画などに専念</li></ul>
不正持ち出し防止ゲート	<ul style="list-style-type: none"><li>● これまでは、不正持ち出し防止処理とバーコードによる貸出／返却処理の両方が必要</li><li>● 貸出／返却処理と不正持ち出し防止処理が一度に可能</li></ul>
蔵書点検	<ul style="list-style-type: none"><li>● これまでは、棚の本 1 冊ずつのバーコードを走査。今後は棚から抜かずに走査可能。</li><li>● 蔵書点検休館の短縮</li><li>● 蔵書点検以外でも、コンテナに入ったままで団体貸出や回送などの一括処理できる可能性も</li></ul>

- 多摩市立図書館は、貸出冊数、予約受付件数が全国的にも多い。
- 貸出／返却入力や予約図書の名寄せ作業などの時間を、相談業務、主催事業企画、選書や蔵書構築などに振り向けることが可能。

参考資料 3-1

○ 多摩地域 26 市における IC タグの導入状況（平成 28 年 4 月 1 日現在小平市調査）

- 部分導入も含めて導入済 14 市
- うち、全館で全資料導入済 6 市

○ 職員ひとりあたりの年間貸出冊数比較（多摩市の拠点館と同程度の分館）

※ 『日本の図書館 統計と名簿 2017』より

※ 町田市は全館で IC タグシステム導入済

自治体名	分館名	職員			貸出冊数 (千冊)	職員 1 人 あたり (千冊)	開架冊数 (千冊)
		常勤	嘱託等	合計			
多摩市	関戸	4	13	17	330	19.4	98
	永山	4	19	23	477	20.7	98
町田市	金森	4	15	19	642	33.8	111
	鶴川駅前	4	13	17	507	29.8	92

課題 3-2 オンラインデータベースなど、ICT を活用した情報環境の充実と情報活用のサポートを充実

本館の現状	今後の方向
インターネット端末の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 端末数の増設。気軽に使える環境の整備。</li> <li>● インターネットの利用状況を見ると、利用していない割合は 31.9%。年齢別では、男性 70 歳以上で 55.3%、女性 60 代で 54.6%、女性 70 歳以上で 70.1%が利用していない。（『第 33 回多摩市政世論調査報告書』平成 22 年 11 月）</li> <li>● 地図情報、紙媒体の資料では難しかった全文検索など、無料で提供されている便利な機能も多い。インターネットの便利な活用法についての講座も必要ではないか</li> </ul>
<p>現在導入しているオンラインデータベース</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官報情報サービス</li> <li>・ジャパン・ナレッジ Lib</li> <li>・聞蔵Ⅱ ビジュアル</li> <li>・日経テレコン 2 1</li> <li>・ヨミダス文書館</li> <li>・TKC ローライブラリー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス、歴史的音源配信など、オンラインによる情報サービスの充実</li> <li>● 現在の利用実態では、ヘビーユーザーにはよく利用されるが、それ以外の利用が広がらない。定期的に利用方法についての講習などが必要。（図書館員も使いこなせるようにならないと）</li> </ul>
ビジネス支援サービスは行っていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民の仕事を支援するための機能を公共図書館でも提供。</li> <li>● まずは、課題解決環境の提供（Wi-Fi など）</li> <li>● 市の創業支援部門とも連携し、データベースを使いこなせるコンシェルジュ的人材により、市民からの相談も含めた幅広い対応を</li> </ul>

参考資料 3-2

○ オンライン・データベースの導入状況

※ 人口 12.5 万～17.5 万の自治体のうち、人口一人あたり貸出冊数上位 18 市のうち、ホームページで確認できたもの

オンライン・データベース名	武蔵野市	浦安市	多摩市	我孫子市	成田市	東村山市	富士宮市	朝霞市
官報情報サービス	1	1	1			1	1	1
ジャパン・ナレッジLib	1		1			1		1
聞蔵				1				
聞蔵Ⅱテキスト						1		
聞蔵Ⅱビジュアル	1	1	1		1		1	
日経テレコン21	1	1	1		1	1		1
日経メニュー		1						
ヨミダス文書館			1					
ヨミダス歴史館	1	1			1	1		
毎索	1				1			
G-serch							1	
静岡新聞データベース plus 日経テレコン							1	
富士宮市地域新聞データベース							1	
岳南朝日新聞							1	
岳陽新聞							1	
TKCローライブラリー			1					
Lexis AS ONE	1							
ウエストロー・ジャパン		1						
法情報総合データベース(D1-Low.com)					1	1	1	
人物レファレンス事典plus	1							
magazineplus	1							
Web OYA-bunko	1							
国立国会図書館デジタル化資料送信サービス		1			1	1	1	
国立国会図書館歴史的音源配信	1	1			1	1		
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	1							
ELNET	1							
武蔵野市地域映像アーカイブ	1							